

## - 目次 -

### 果樹農業の動向

- ・北半球における柑橘類生産の動向 1

- ・リンゴ自動収穫への探求は続く 2

### 現地報告

フランス 4

タイ 5

### トピックス

- ・ブラジル 柑橘類地帯の雨が2025年の供給回復への期待をもたらす 7

- ・ゼスプリはゴールド/レッドキウイの強い需要を予測 8

- ・中国山西省 シャインマスカットの品質は安定するも供給は過剰 8



## 果樹農業の動向



### 北半球における柑橘類生産の動向

世界柑橘類機関の北半球年間生産量予測は約9%減少 FreshFruit Portal(2024年11月19日)

世界柑橘類機関(WCO)は、来たる2024-25年度柑橘類シーズンの北半球柑橘類年間予測を発表した。

この暫定的な予測は、地中海地域と米国の業界団体のデータに基づいており、エジプト、ギリシャ、イスラエル、イタリア、モロッコ、スペイン、チュニジア、トルコのほか、初めてポルトガルのデータが含まれている。

報告された数字ではこれらの国々の柑橘類の生産量が2,729万7,216トンと推定され、前シーズンと比較して8.73%の減少を示している。また、過去4シーズンの平均よりも5.88%少なくなっている。

柑橘類の輸出量も同様の傾向をたどり、総輸出量は昨シーズンより9%、過去4シーズンの平均より9.7%少ない837万9,831トンと予想されている。

WCOのフィリップ・ビナール事務局長は、市場の見通しは豊作だった昨年からの減少を示していると述べ、「これは主に、トルコが昨シーズンの記録的な数字から通常の実産水準に戻ったことと、エジプトで減少が予想されるためである。遅霜、干ばつ、熱波などの天候上の問題や新たな病害虫は、生産物の品質、色付き、収穫時期に影響する恒常的な脅威である。市場は依然として地政学的不安定性の影響を受けており、一方で消費者需要は購買力の制約とインフレにより圧迫されている」と語った。

EUの主要生産国の国別の数値を見ると、スペインの柑橘類の生産量は、レモンが過去最高だった昨シ

ズンから21%減少したため、全体として前シーズンより3.3%少ない610万トンと見込まれる。スペインの(最近の)劇的な気象現象は供給量全体に大きな影響を与えると考えられておらず、供給量の予測は変わらない。イタリアはオレンジが17.5%減少し、柑橘類全体では12.3%減の270万トンと予測され、他方、ギリシャは109万トンの横ばいである。

他の地中海諸国では、トルコが昨シーズンの記録的な生産量から17%減となる495万トンと予測される。エジプトの435万トンは、2023-24年度から19%の減少となる。一方、モロッコの生産量は210万トンに増加(+12%)すると予想される。イスラエルの生産量も50万6千トン(+18.5%)に回復すると推定される。

今回初めて予測に貢献したポルトガルは、来シーズン3.3%の減少(合計38万トン)を予測している。

米国の生産量は455万トンに減少(-4%)すると予想され、近年の平均(-11%)と同じく減少が続いている。

ビナール氏は、「WCOは、来シーズンの柑橘類の予測仕向量についてもいくつかの傾向を想定している」と述べた。北半球の柑橘類の輸出量は昨シーズンと比較して9%近くの減となる838万トンと見られ、加工仕向量は516万トンに減少し(-4%)、国内販売量は残りの1,376万トン(-10%)と見込まれる。

WCOは南半球の2025年の生産量と輸出量の予測を、来年4月に発表する予定である。

出典: 世界柑橘類機関

## トルコ 柑橘類は課題が多く生産量が全体的に減少 FreshPlaza(2024年10月28日)

トルコの柑橘類のシーズンが始まり、同国の青果物輸出業者エレン社の販売マネージャーであるコスクン・エレン氏は、さまざまな柑橘類のほとんどに課題となる要素があるとして、「主に、極端な天候と気候変動の問題がある。高温と不規則な降雨パターンは、果実の成長を遅らせ、収量を減らす一因となっている。一般的に、この傾向は良くないが、すべての品種が悪い状況にあるわけではない。たとえば、マーコットマンダリンとオレンジの一部は、かなり有望な状況にある。全体として難しいシーズンではあるが、弊社の企画力と強力なサプライチェーンにより、引き続き需要に伝えていく」と述べている。(以下「」は同氏の話)

総じて言えば、全体的に生産量の減少が予想され、エレン氏は、今シーズンはこれがマンダリンについて特に極端であると強調する。「今シーズンは、柑橘類の種類によっても異なるが、出荷量が著しく減少している。マンダリン品種については、早生品種を中心に昨シーズンと比較して50%も少ない。この減少の主な理由は、栽培面積の減少と悪天候である。しかし、マーコットマンダリンに関しては、収量と品質の両方で良いシーズンを期待している。グレープフルーツは全体的にマンダリンと同様の傾向のようであるが、この減少はトルコ

だけでなく世界的な問題である。レモンについては激減が見込まれる。(以下、中略)」

「(マンダリンとグレープフルーツについて)トルコでは昨シーズンに比べて収量が低下すると予想されるが、スペインのマンダリンの収穫量も20%以上減少すると予想される。グレープフルーツに関しては、ヨーロッパでの需要減少傾向が続いており、特にZ世代やアルファ世代などの若い世代はグレープフルーツの消費量が少ない。そのため、需要が増加している市場は、より魅力的になる可能性がある。」

全体として、同社は、この困難な柑橘類シーズンが確実にもたらすチャンスに飛び乗ることを望んでいる。「次の柑橘類シーズンに対する弊社の期待は、近年に比べて少ない収穫量と国内需要の高まりにより、価格が高止まりすることである。マンダリン市場では、収量の低下と旺盛な内需により、価格が高止まるだろう。弊社は輸出に重点を置いているため、国際市場でも価格が上昇すると期待している。一方、オレンジについては楽観的な見方をしており、収量と品質の両方でより生産的なシーズンになると予想している。課題は予想されるものの、弊社の目標は、現在の状況を最大限に活用し、製品の高い品質基準を維持することである。」

ニック・ピーターズ

## リンゴ自動収穫への探求は続く

Good Fruit Grower (2024年11月21日)

今年、ワシントン州でリンゴのロボット収穫を行う企業は1社だけである。しかし、生産者はその進展に満足している。

アドバンスドファーム社(本拠地:カリフォルニア州デイベス)は、試験的にリンゴの自動収穫を行うために3年続けてワシントン州に戻ってきた。同社は、2027年までに商品化を行うという野心的な目標を掲げている。我々は確固とした展望と目標を持たなければならないと、会長であり共同創業者であるカイル・コップ氏は語った。

コップ氏と彼の同僚によれば、1台当たりの価格は最終的に30万米ドルになると推定している。

競争相手となるイスラエルの企業2社は、ワシントン州で試験収穫を行ったことがあるが、今年は米国以外での活動に集中している。

アドバンスドファーム社の収穫ロボットは、先端に吸引カップ型のエンドエフェクター(ロボットアーム本体の手先に装着する装置)を搭載した6本の多関節アームを持ち、そのアームを画像認識により作動させてリンゴ果実を引きもぎ、それを大型の収納容器につながるコンベヤーのシステム上に正確に置く。収穫ロボットは自動で動くが、作業者が乗車して傷果の選別と果梗の切断(軸を短く切る)を行う。作業者が行っているこれら作業は、次の10年で光学式選別機と機械式ハサミを加えて完全自動化を目指している。

同社のエンジニアは、冬の間、ソフトウェアアルゴリズムの微調整、コンベヤーベルトや衝撃緩和資材の再設

計、エンドエフェクター材料の軽量化を進めた。今や、1時間で2,500果の収穫ができ、この数値は2023年試験の約3倍である。

コップ氏によると、今年の収穫ロボットの収穫効率については、ガラ種では対象果実の30%をうまく収穫でき、そのうちの12%が傷果となった。ハニークリスプ種では、ロボット収穫に適するようにせん定されていたこともあり、45%を収穫できたという。

収穫シーズンが進むにつれ、収穫ロボットの性能も上がり傷害果の目標値を容易に達成したと、ワシントン州果樹研究委員会のイネス・ハンラハン氏は語った。同委員会は、アドバンスドファーム社を含むロボット収穫機に関するプロジェクトに資金提供している。

「同社は我々の提案を聞き入れ、その機能を速やかに組み込んだ。今や傷害果率は、果樹園樹形が適切に整枝せん定されていれば、手収穫と同じである」とハンラハン氏は語った。

同氏によれば、比較として、同研究委員会は手収穫では果梗を切断しない場合1時間に1,800果収穫できると判定した。この値は、ハシゴや高所作業車を使い、各種樹形の多様な品種を収穫する場合の平均であり、樹形には平面的樹形や通常の3次元樹形も含まれるという。

コップ氏によれば、同社は今後数年間引き続き収穫果率や傷害果率などの性能向上に努め、収穫ロボットを商用化することに自信を持っている。また、同社は、

画像分析を専門とするオーチャードロボティクス社とも連携して、収穫ロボットが果樹園を通行する前にその画像を取得して、収穫可能果実の割合や果皮色のような収穫指標についての全体像を明確に示すような改良にも取り組んでいる。

コップ氏によると、アドバンスドファーム社の開発担当者らはイチゴの自動収穫を目指して2018年に同社を設立したが、その後、対象をリンゴだけにしぼることにした。それはリンゴがトリス樹形で遺伝的特徴がより自動化に適し、季節労働力の必要性が高くより成長機会があるからであるという。

さらに、同社は、6年間にわたってスタートアップ資金としてこれまでに3,500万ドルを、クボタ、CNH インダストリアル、ヤマハ発動機、カタパルトベンチャーズ、インパクトベンチャーズから調達している。さらに、2027年までに20台の果樹園商用ロボットを配置するのに1千万ドルが、それをさらに拡大するには別途1千万ドルが必要であるという。

### 改善点

生産者らは、過去数年間ロボット収穫機を見てきて、改善が進んでいると感じている。コロンビアフルーツパッカーズ社のジェフ・クレベリング氏は、複数年アドバンスドファーム社を招いて試験していて2027年の商用化目標は、妥当であると語った。傷害果率は、少なくとも彼のガラ園については、同社が宣伝する12%を下回っているという。彼も、ワシントン州果樹研究委員会のメンバーである。

クレベリング氏は「今年は、明らかに課題が解決されてきた。つまり、大幅に改善したということである」と語り、収穫ロボットは、今では人より早く収穫できると確信しているが、ただそれだけではコスト的に十分とは言えないという。収穫ロボットは、高所作業台車を利用した4人による一定のコスト以下の作業より効率よく収穫する必要がある。昨年は、その人力のコストは1果当たり2〜3セントであったが、今年は4セントに近づいている。

9月に、アドバンスドファーム社はワシントン州カウイチ近郊のチアワナオーチャーズ社で行われたヤキマポムクラブ会員約60名を対象として試験運転を行った。同社の責任者は、いつかはロボット収穫機の購入を希望する生産者からの意見や批判も歓迎した。「我々にとって可能性のある顧客と正直につきあうことに不都合なことはない」とコップ氏は語った。

ローヤルブラフオーチャーズ社のジュリア・プリンゴ副社長は、自身の性格を好き嫌いがはつきしていると述べながら、ロボット収穫機の実演を見学して機械収穫されたリンゴ(ハニークリスプ種)の収穫容器を詳しく調べた。

プリンゴ氏は、ロボット収穫機により擦れた果実が数個あるが容器は全体的にきれいだと言った。ロボット収穫機が原因でない損傷や擦り傷のある果実もあるが、それら果実を選果場には送ることはないだろう。

同氏は、損傷果の圃場選果は、我々の優先事項の一つであり、収穫容器に損傷果が入らないことを確認

することは本当に重要である。それが、利益を最大化する一例であると語った。

収穫機の価格からみて、プリンゴ氏は少なくとも収穫果割合70%、傷害果割合5%以下となることを期待しているようだった。コップ氏は、そうした目標は実現可能と見ている。

アランプラザーズ社のエンジニアであるドゥルー・ワシヤット氏は、2年間収穫ロボットを見てきて、特に速度の面で進歩がみられるとして、「各ロボットアームは明らかに無駄な動きが減っている。昨年は、スキヤンの動作が多かった。今年は、決められた位置に戻り、すぐに次の果実に向かっていく」と語った。

カーショーフルーツ&コールドストレージ社の圃場責任者であるエバン・ギボンズ氏は、容器内果実の全体的な品質に満足していた。完全ではないが、出荷可能のようである。気になる点としては、吸引カップが果実を短果枝ごと収穫することである。手収穫でも時にはそのようなことが起こる。

全体として、プリンゴ、ワシヤット、ギボンズの各氏は、同社の進歩にワクワクしていると語った。プリンゴ氏は、自身の果樹園での試験運転について相談していた。一方、ギボンズ氏は、自動化が彼の経歴を彩るものになると期待している。ギボンズ氏は「農業工学分野での経歴は35年になる。ロボット収穫機は、まさに我々が利用しつつある段階にあることを理解しているし、どこまで進むか見届けることに心底期待している」と語った。

### イスラエルの2社も戻ってくるだろう

ワシントン州で以前試験運転を行った果樹園用ロボット企業2社、イスラエルのテベル社とフレッシュフルートロボティクス社の代表らは、今年は別の国での活動に焦点を当てているという。しかし、いつか米国に戻ることを計画している。

テベル社の機械は、吸引カップ付のドローンが、アルファ社の高所作業台車上に設置されたコンベヤーと収穫容器収納からなるシステムに連結されている。2022年と2023年には、ワシントン州のリンゴとカリフォルニア州の核果類果実を収穫した。

テベル社のイットアイ・マロム本部長は、「わが社は、今年の収穫シーズンは欧州と、それとは逆のシーズンとなる南アメリカでの活動に集中することを決定した。米国と欧州で改良を加えながら同時に作業をするという案では、むしろ焦点がぼけることになりシステム向上にはならない。来年、ワシントン州に戻るのが当社の立場としてよいと考えている」と、本誌宛てのメールに記した。

フレッシュフルートロボティクス社の創立者であり最高経営責任者であるアビ・カハニ氏は、次のように語った。「我々は現在イスラエルでの資金調達と事業活動を進めていており、開発の継続と将来の成長を支援するための追加資金の調達段階にある。長期ビジョンに注力し続け、近い将来拡大計画を再開することを期待している」

ロス・コートニー

 現地報告

## フランス : スペインの洪水で柑橘類とカキに被害

フランス現地情報調査員 ジャンルイ・ラリュ

10月29日、スペイン東部のバレンシア自治州全体とその西隣のカスティーリャ・ラ・マンチャ自治州の一部、アンダルシア自治州の一部では、鉄砲水のような急激な豪雨に見舞われた。地中海の湿った大気とヨーロッパ大陸の冷たい大気がぶつかって、引き起こされる「ダナ」と呼ばれる急激な豪雨はこの地方では珍しいものではないが、今回の激しさはかつて経験したことのないものであった。その上、警報が出されたのが遅く、11月30日現在で、死者230人、行方不明の人もまだいると言われている。スペインの気象庁は州政府に対して、10月29日の朝から気象状況が危険なレベルにあることを伝達していたらしいが、州政府はなかなか対応しなかった。スペインでは地方分権化が進み、災害などの対応は中央政府ではなく、自治州の政府に任されていることになっている。筆者が居住するフランスではその頃、アメリカの大統領選挙や、自国の予算審議、それに絡んで内閣不信任案の可能性などが連日報道を賑わせていたが、29日の夜からは、隣国スペインの被害状況が刻々と伝えられた。4、5階建ての建物が並ぶ狭い路地に、沢山の車が二重、三重に積み重なったり、車体のお腹を剥き出したりしてココア色の泥水に浸かっている様子や、濁流が野といわず、町といわずを流れ、橋を壊し、山を削る様子が報道された。翌日になると、リュックサックを背に、スコップや箒を持参して被災地に向かう何万人の人々が、道路を埋め尽くしていた。一方、公的な救助隊や軍隊などはなぜか翌日になっても、動く様子がなかった。多くの被災者は、ボランティアの人々がどれだけ心の支えになっているか計り知れないと、感謝していた。その後、州政府は、軍や救助の車が通れなくなるほど、被災地に向かう多数のボランティアが道を埋め尽くして、救助に支障をきたしているとして、ボランティアに被災地に行くことは留まってほしいというメッセージを発表している。発電所も浸水して、停電が続いたため、排水装置も機能せず、食料の冷蔵保存もできない状態であった。また墓地も浸水し、亡くなった人の葬儀もできず、遺体の保存にも問題が生じた。フランスでは、こうしたスペインの洪水を報道する中で、日本のように日頃から災害に対する心構えを徹底させるべきだと報じていた。

その後、11月には、スペインの南部アンダルシア自治州などが数回、豪雨に見舞われた。10月29日のバレンシア州の豪雨ほどのものではなかったものの、農作物への被害はかなり深刻なところもある。

バレンシア州は、地中海気候に恵まれ、柑橘類、特にオレンジの産地である。ただし、「バレンシア・オレンジ」と呼ばれるものは、ポルトガル領アゾレス島から持ち込まれた樹をもとに、アメリカで改良された品種で、スペインのバレンシアにあやかって名付けられたようだ。

スペイン農業省の資料によるとスペインはEUの中で柑橘類の最大生産国である。国内で生産される柑橘類の60%を輸出に向けていて、世界でも最大の輸出国で、世界輸出総額の25%を占め、毎年31億ユーロ程度を輸出

している。今年は、雨量が少なく収穫が心配されていた。9月初頭に収穫が始まって、その後2週間経った9月16日(洪水の1ヶ月半前)に、スペイン農業省は、2024-25年度の柑橘類の予測収穫量を発表した。2024-25年度の柑橘類の予測総収穫量は584万トンで、前年比で1%減り、過去5年平均値と比べると8.6%低いと見られていた。減少は、重要な成長期に異常高温と早魘で果実が大きくならなかったためとされていた。また、資料の詳細を見ると、スペインの柑橘類生産量の51%を占めるオレンジの予測収穫量は297万トンで、前年比8.8%増であるが、過去5年平均値と比べると8.2%の減少となる見込みとされた。なお、スペインで生産されるオレンジの71%はネーブル種系である。小型柑橘類は183万トン(柑橘類全体の31.3%)で、昨年よりも3.3%減、過去5年平均比で9.6%減となるであろうとしていた。その構成は温州みかん(Satsuma)6.1%、クレメンタイン49.9%、マンダリン44%であった。レモンは、記録的な豊作であった昨年に比べると20.5%減り、過去5年比では9.9%減の24万1,650トンとなる見込みとされた。ブレイブフルーツは、昨年比0.6%増、過去5年平均値比で8.3%増の86,305トンで、過去最高になると予測されていた。こうした予想値が出されたものの、10月29日の洪水でスペインのすべての柑橘類の生産量はこれよりも大幅に低くなる見込みである。スペインの柑橘類の生産は、灌漑に頼っていて、水の確保が難しくなっていること、最近害虫の被害が多く、殺虫剤にコストがかかることなど洪水以外の問題も表面化している。

スペインは柑橘類だけでなく、柿の産地としても有名である。被害から1ヶ月後の11月27日のフランスのラジオ局(Francerradio)は、バレンシア州の柿の80%が被害を受けたと報じた。その報道の中で、柿栽培者は、洪水の後も、土地が水膨れの状態で、暴風雨に耐えて樹から落ちなかった柿も、結局腐り落ちたと語った。その人の畑は一時2mから2m20cmの水が覆ったそうだ。被害は収穫だけでなく、設備にも及んでいる。灌漑設備が恐らくあちこちで壊れているだろうと語っている。

スペインの柿生産量は、FAO統計(FAOSTAT)によれば、2017年に40万トン(世界第2位)であったがそれ以降掲載されておらず、フランスの農業研究機関(CIRAD)の情報では、2018年の49万トンをピークにその後は大きく減少している。柿の輸出額は、FAO統計によれば、世界最大で、2021年に2億3千7百万ドルで、2022年には1億7千3百万ドルに低下している。

スペインでは1950年ごろまでは、柿はもっぱら自家消費用に植えられていた。その後、販売目的で栽培されるようになる。バレンシア市から北西に30km

ほどに位置するカステリオン県のセゴルベというところではTomatero種が栽培され、バレンシア州のリベラ・アルタ地区ではCostata種とClistalino種が栽培された。そのClistalino種から自然発生したのがロホ・ブリヤンテ (Rojo Brillante) 種で、1960年台から栽培が始まった。その後、リベラ デル シュケル地区では、EUの呼称認証制度(AOP)を取得して、ロホ・ブリヤンテ種をKaki Persimonと名付けて販売している。(商標名として、故意に柿の英語persimmonからmを一つ除いている。)ロホ・ブリヤンテ種は渋柿タイプで、豆柿 (*Diospyros lotus*) に接木して栽培し、渋抜きをして売られる。タネがなく、果肉が固く甘い。バレンシア州では、柿生産の95%をロホ・ブリヤンテ種が占めている。

EU各国の柿の輸入総量の15万3千トン(うち1万5千トンは再輸出される)の90%はスペイン産で、ドイツが4万5千トン、イタリアが2万4千トン、フランスが2万トンを輸入している。EU内では、ドイツが柿の最大消費国で、2013年の一人当たりの消費量は350gであったのが、2019年には637gに増えた。フランスでも143gから355gに増えているが、あるアンケートで柿を食べていると答えた人はフランスでは十人に二人しかいなかった。フランスでは普通、マンゴーや柘榴などの外国の比較的珍しい果実と一緒に売られているが、あるスーパーで冬の果実として、リンゴ、西洋ナシ、オレンジと並べて販売したところ、柿の販売量が30%伸びたそう。筆者の個人的な体験では、フランス産有機栽培の柿を買って、往々にして渋い。最近では、渋いものなのだと覚悟し、買って来た後、ラム酒数滴と一緒にプラスチックの袋に入れて密封し、4~5日放置することにした。恐らく、フランスの小規模な有機栽培農家は、スペインの大規模な生産者と比べて、渋抜きの知識や技術のレベルが低く、そのまま出荷しているのではないだろうか。フランスでは、渋柿に懲りて、その後、柿は買わないという人も結構いる。

11月11日、スペインの中央政府は10月29日のダナ(洪水)で被害を受けた農業部門に対して総額4億4450万ユーロ(約700億円)の援助を発表した。バレンシア州の75自治体、その他の州では、カスティージャ・ラ・マンチャ州のアルメリア県の34の自治体の他、同州クエンカ県、アンダルシア州のアルバセテ県、マラガ県の全部で4万9千軒(総面積で7万ヘクタール)の農家を対象にしている。総額のうち、3億9千万ユーロは農家への補助に当てられる。40%を超える損失があった生産者に対する援助が総額2億ユーロ、設備の修復には1億7千万ユーロ、農家の農具の買い替えには1千万ユーロ、特別融資制度の保証と利子補給に6千万ユーロ、食糧援助に450万ユーロが含まれる。スペインの農相は「スペインの農業の存続を守るためにスペイン政府は全力を尽くす。補助はその一環である」と述べている。しかし、前述の11月27日のフランスのラジオ局の報道で、ある果樹生産者は、「5ヘクタールの果樹園の損害額は5万ユーロと見ているが、政府の援助は1軒あたり最大で2万ユーロ(約320万円)なので、これでは再出発できない」と語っている。その地域では10人に7人の農業者が60歳以上で、多くの人がすっかりやる気を無くしているようだ。

ヨーロッパ市場に出回るスペイン産柑橘類の品薄が心配される一方で、モロッコの柑橘類輸出業者は、この機に、ヨーロッパへの輸出を増やそうとしている。これまでも何とかして地中海を超えただけの近距離のヨーロッパ市場への輸出を狙っていたが、スペイン産に押されて、ヨーロッパへの輸出は断念せざるをえず、輸送リスクの高い北米(アメリカおよびカナダ)に輸出してきた。モロッコ産柑橘類のヨーロッパへのシフトで、北米で柑橘類が品薄になる可能性が高くなるかもしれないと、報じられている。

## タイ : 旬のタイフルーツ (地域別おすすめと健康効果)

タイ現地情報調査員 宮谷内 泰志郎

その国に住んで初めて季節の移り変わりを肌で感じるができると言われるが、日本人が季節ごとに食を楽しむ習慣を持つように、タイの人々も季節を感じながら、シーズンごとの旬の果物を楽しんでいる。

さらに、近年では健康意識が高まり、消費者の購入判断にもその影響が見られる。

### 自然志向

タイでは健康的なライフスタイルを求める人々が増え、自然食品やオーガニック製品への関心が高まっている。果物はその代表的な例であり、新鮮で栄養価の高いものが特に好まれる。

### 栄養価の重視

タイの人々は果物の栄養価を重視し、特にビタミンや抗酸化物質が豊富な果物を選ぶ傾向がある。例えば、マンゴスチンやドラゴンフルーツなどは、健康効果が高いとされ、人気がある。

### ダイエットと美容

果物は低カロリーでありながら栄養価が高いため、ダイエットや美容に良いとされ、多くの人々が積極的に取り入れている。

タイは多様な気候と肥沃な土壤に恵まれ、世界中で愛されるさまざまなフルーツが栽培されている。これまでも果物の輸出やタイの土壤の豊かさについてレポートを行ってきたが、今回はローカル消費者が季節ごとにどんな健康効果を期待して果物を購入しているのかに焦点を当てる。

そこで、タイの人々が知る異なる特徴を持つフルーツの魅力、それぞれの健康効果、さらに旬の時期を整理し、「フルーツカレンダー」を作成してみた。

※対象はメジャーなフルーツのみとする。

フルーツ	タイ語表記 カタカナ読み	産地(県)	旬 (月)	健康効果(他)
パッション フルーツ	เสาวรส サワロト	チェンマイ、 ナコンラチャシーマ	1～5	ビタミン C が豊富で抗酸化作用があり、消化促進にも効果的。
ローズ アップル	ชมพู チョンプー	サムットプラカーン、 ナコンシータマラート	3～5	水分が多く低カロリーで、美容やダイエットに適する。
プラム マンゴー	มะม่วงพหลิม マプラーン	チャチューンサオ、 サケーオ	3～6	ビタミン C が豊富で免疫力強化、食物繊維が消化を助ける。エネルギー源として優れた果物。
マンゴー	มะม่วง マムヴォン	チャチューンサオ、 サケーオ、 ランプーン	3～6	ビタミン C やビタミン A が豊富で、免疫力を強化し、視力を保護する。また、食物繊維が消化を助け、便秘予防にも寄与。抗酸化物質も含まれ、抗炎症作用や抗がん作用に期待。ナムドクマイ種は甘みが強く、食感が滑らか。
ジャック フルーツ	ขนุน カヌン	チャンタブリー、 ナコンシータマラート	4～6	食物繊維が豊富で消化を助け、ビタミン A が視力を保護。
マンゴスチン	มังคุด マンクット	チャンタブリー、 トラート	4～ 10	「果物の女王」と称される。果肉はジューシーで上品な甘酸っぱさがある。抗酸化物質であるキサントンが豊富で免疫力を高めるほか、美肌効果が期待でき、コレステロールを下げる効果がある。抗がん作用や抗菌作用も期待。
サラカヤシ	สะลอะ サラ	チャンタブリー、 ラヨーン	5～7	独特の香りと甘酸っぱさが特徴。ビタミン C や食物繊維が豊富で、消化を助ける作用あり。
ライチ	ลิ้นจี่ リンチー	チェンマイ、 チェンライ	5 中 旬～ 6 中 旬	ビタミン C や抗酸化物質が豊富で、美肌効果や免疫力向上に寄与。
ドリアン	ทุเรียน トゥリアン	チャンタブリー、 ラヨーン	5～8	クリーミーな食感と独特の風味が特徴。エネルギー源として優れた果物で、ビタミン C やビタミン B 群、カリウムが豊富で免疫力を強化する。抗酸化物質も含まれ、心臓病予防にも効果的。
ランブータン	เงาะ ンゴ	チャンタブリー、 ナコンシータマラート	5～8	ビタミン C や鉄分が豊富で、美肌効果や貧血予防に寄与。
ロンガン	ลำไย ラムヤイ	チェンマイ、 ナコンシータマラート	6～8	ビタミン B 群やビタミン C が豊富で、疲労回復や免疫力向上に寄与。
カスタード アップル	น้อยหน่า ノイナー	スラタニ、 ナコンシータマラート	6～9	ビタミン C や食物繊維が豊富で、抗酸化作用があり、免疫力を高める。消化を助ける働きも期待。

注：表の健康効果(他)については、著者が現地での取材、情報収集等に基づき整理したもの

ドラゴンフルーツ	แก้วมังกร ゲーオマン ゴン	チャンタブリー、 ナコンパトム	6～ 10	ビタミン C が豊富で免疫力を高め、消化を助ける食物繊維も含む。
スイートタマリンド	มะขามหวาน マカームワ ーン	ペッチャブーン	10～ 2	甘酸っぱい風味が魅力でジャムや料理に幅広く利用される。消化促進や抗酸化作用あり。
ポメロ	ส้มโอ ソムオー	ナコンパトム、 チャイヤプーム	10～ 2	甘さと酸味のバランスと、シャキシャキした食感が人気。ビタミン C が豊富で免疫力を高めるほか、血圧の調整にも寄与。血圧を下げる効果も期待。
シュガーアップル/ 釈迦頭	น้อยหน่า ノイナー	スラタニ、 ナコンシータマラート	11～ 1	ビタミン C や食物繊維が豊富で、抗酸化作用と消化促進に寄与。
みかん	ส้ม ソム	チャチューンサオ、 ナコンパトム	11～ 2	ビタミン C が豊富で風邪予防に効果的。食物繊維が腸内環境を整え、抗酸化作用も期待。
バナナ	กล้วย クルアイ	チュンポーン、 ペッチャブリー	通年	エネルギー源として優れており、カリウムが豊富で心臓の健康に寄与。タイでは多様な品種が楽しめる。
パパイア	มะละกอ マラゴ	チャチューンサオ、 プラチュアアップキリカン	通年	パパイン酵素が消化を助け、美肌効果や免疫力向上に寄与。
タマリンド	มะขาม マカーム	チャイヤプーム、 スラタニ	通年	食物繊維が豊富で整腸作用があり、ビタミン B 群も含まれる。
グアバ	ฝรั่ง ファラン	チャチューンサオ、 ナコンパトム	通年	ビタミン C や食物繊維が豊富で免疫力向上、消化促進に寄与。
スイカ	แตงโม テンモー	ナコンパトム	通年	水分補給に最適で、ビタミン A と C が豊富。利尿作用も期待。
アボカド	อโวคาโด アボカド	チャンタブリー、 ナコンパトム	通年	健康的な脂肪が豊富で心臓の健康に寄与。ビタミン E や K も含まれ、美肌効果や骨の健康にも良い。

タイも日本に続き、少子高齢化社会となりつつあり、特に都心部(バンコク)を中心に健康志向が高まっている。それに伴い、健康的な食事への関心も増し、消費行動もそうした意識に即したものとなっている。

タイを訪れる際には、ぜひカレンダーをご参考にしていただき、旬の果物を存分にお楽しみいただければ幸いである。

## トピックス

### 1. ブラジル 柑橘類地帯の雨が2025年の供給回復への期待をもたらす Cepea(2024年11月1日)

果汁業界最大のオレンジ産地であるサンパウロ州とトリアングロミネイロ地域(ミナスジェライス州の三角地帯)の柑橘類地帯では、10月下旬に通常の降雨と穏やかな天候が記録された。これは、雨不足と高温の影響を受けていた果樹にいくらかの助けとなった。

2024/25年度シーズン - 降雨が再開したものの、現在収穫されているオレンジは低い品質を示している。それで

も、10月の雨は、まだ樹上に残っている果実の品質を向上させる可能性がある。今年のオレンジの収穫は6月に始まり、12月または来年の1月に終了すると見られることは留意に値する。タヒチライム(収穫の最盛期は11月から12月の間に始まる)に関しては、現在は果実の生育が標準を下回っているため、気象条件が成熟に有利に働く可能性がある。

輸出 - Comex Stat(ブラジル政府の貿易統計)によると、2024/25年度産のこれまで(2024年7月～9月)のオレンジ果汁の出荷でブラジルの輸出業者が

**(公財) 中央果実協会****編集・発行所**

公益財団法人 中央果実協会

〒100-0011

東京都千代田区内幸町 1-2-1

日土地内幸町ビル 2階

電話 (03)6910-2922

FAX (03)6910-2923

**編集・発行人**

今井 良伸

**印刷・製本**

(有)曙光印刷



毎日くだもの 200 グラム運動

当協会の web サイト

[www.japanfruit.jp](http://www.japanfruit.jp)

本誌についてのご質問、ご意見、お気づきの点がある場合、転載を希望する場合は、上記にご一報願います。

より一層有益な情報発信に努めて参ります。

本誌の翻訳責任は、(公財) 中央果実協会にあり、翻訳に関して、

**FreshFruitPortal****FreshPlaza****Good Fruit Grower****Cepea**

は一切の責任を負いません。

得た収益は合計9億530万米ドルで、前シーズンの同時期(6億3,610万米ドル)と比較して42.3%増加した。

一方、ブラジルのオレンジ果汁の輸出量は、2023/24年度産以来確認されているように、減少を続けている。2024年の7月から9月までにブラジルは20万7,500トンのオレンジ果汁を出荷し、これは2023年の同時期と比較して27%少なかった。

輸出量が少ないことは供給の制約に関係している。悪天候により5シーズン連続で生産が妨げられ、その結果、果汁の在庫が逼迫している。

Cepea - サンパウロ大学農学部応用経済高等研究センター

## 2. ゼスプリはゴールド/レッドキウイの強い需要を予測 FreshPlaza (2024年11月27日)

ゼスプリが最近発表した5カ年見通しレポートでは、このセクターの2030年末に向けた軌道を分析し、チャンスと課題の両方に焦点を当てている。このレポートは、供給を上回るサンゴールドの堅調な需要を強調しており、ブランド製品に対して高い対価を支払う市場の意欲について、同社は楽観的である。ゼスプリのキウイフルーツは、15市場中10市場でトップ3の果実にランクインしており、ニュージーランド国内産と国際的に調達されたゼスプリブランド果実の両方に対する強い需要を示している。

レポートの予測は、サンゴールドが引き続き需要をリードし、2030年までに供給量が1億3千万箱から1億5,300万箱に増加すると見込んでいる。一方、従来からのグリーン品種については、生産者が他の品種に移行し、同じ期間に6千万箱から5千万箱に減少すると予想している。このグリーンキウイの供給量減少により、2030年までに1箱当たりの価格が28%上昇して9ドルになると予想している。また、サンゴールドとルビーレッドの価格は、1箱当たりそれぞれ19%上昇の12.50ドル及び32%上昇の16.50ドルと予測している。

一方、この報告書は、ニュージーランド国内の栽培面積を上回る推定8,387ヘクタールに拡大した中国でのサンゴールドの無許可栽培の問題を看過していない。違法な栽培により約4千万箱が生産されており、その一部がゼスプリブランドの偽造品として販売され大きな

問題となっている。法的手段を通じてこの問題と闘う努力にもかかわらず、無許可の栽培品及び他の国際的な供給源との競争は依然として懸念事項である。

同報告書はまた、世界の中流階級の拡大、高齢者層における果実消費量の増加、及び新型コロナウイルスの世界的流行後の健康と栄養への関心の高まりに関連する主要な好機を見出している。供給の観点からは、ゼスプリは今後数年間、サンゴールドの追加のライセンスをリリースする意向であり、北半球での拡大についてはニュージーランド国内の生産者の投票待ちである。ルビーレッド品種は、現在は数量的に少ないが、2030年までに大幅な成長が見込まれる。(一部省略。「ドル」はNZドル(1NZドル=約89円))

出典: Farmers Weekly

## 3. 中国山西省 シャインマスカットの品質は安定するも供給は過剰 FreshPlaza (2024年12月3日) (一部省略)

山西省运城宇鳳苑(ユンチェンユフエン)協同組合のレイ氏は、「シャインマスカットは、国内の様々な産地で栽培されており、それぞれに独自の特徴がある。中国山西省運城市では、シャインマスカットは8月末に熟し、出回るが、これは雲南省の産地とは時期が異なる。山西省のブドウは、比較的安定した味と糖度で知られている」と説明する。

「シャインマスカットの栽培面積は拡大し続けているが、販売量はそれに比例して増加していない。市場は過剰な供給を吸収できず、多くの生産者が大きな損失を被っている。今年の産地価格は約4~6元/kgで、昨年の半額近くとなっている。また、売れ行きが鈍く、前年に比べて業者の熱意を弱めている。」

輸出について、レイ氏は今年の輸出価格が昨年よりも低いと指摘した。輸出の取引先はより慎重で、単一注文の量は減少している。「現在、緑色ブドウは新疆のホルゴス陸港を通じて陸路でロシアに輸出されている。私たちは輸出市場を拡大し、より多くの顧客を引き付けるために取り組んでいる。在庫量は十分で、いつでも注文を処理できる。」